

(仮称) 福岡市科学館に係る特定事業の選定について

1 特定事業の選定

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成 11 年法律第 117 号）」（以下「PFI 法」という。）第 7 条の規定に基づき、（仮称）福岡市科学館整備運営事業（以下「本事業」という。）を特定事業として選定する。

※ 特定事業とは

公共施設等の整備等に関する事業で、PFI 事業として実施することにより効率的かつ効果的に実施されるものをいう。

(1) 定量的評価（財政負担額の評価）

従来手法で実施する場合と PFI 方式で実施する場合の市の財政負担額を事業期間中にわたり年度別に算出し、その合計額を現在価値に換算して比較した。

この結果、市の財政負担額は、PFI 方式で実施することにより、約 10%の縮減効果を見込むことができる。

(2) 定性的評価（サービス水準等の評価）

本事業を P F I 方式で実施する場合、以下のような定性的な効果が期待できる。

① サービスの質の向上・維持

本事業においては、科学館の魅力向上に繋がる展示やプログラムの企画・実施、大学や企業との連携などにおいて事業者が有する専門的な知識やノウハウを活用することにより、施設の機能性や利便性、安全性、効率性の向上が図られ、より良質かつ効率的なサービスの提供が期待できる。

② 設計、施工、運営・維持管理業務の一括発注による事業の効率化

設計、施工、運営・維持管理までを一括して事業者に委ねることにより、運営・維持管理業務を担う者の意向を踏まえた施設整備が可能となり、事業の合理化や効率化が期待できる。

③ 財政負担の平準化

民間資金を活用することで、市は事業期間終了までの間に初期整備費を含めた事業費を分割して支出することが可能となり、財政負担の平準化が図られる。

④ リスク分担の明確化による安定した事業運営

市と事業者がそれぞれ適切なリスクを負担することにより、問題発生時に適切かつ迅速な対応が可能となるため、事業期間にわたっての安定した事業運営や円滑な事業遂行が期待できる。

(3) 客観的評価の結果

本事業は、PFI 方式にて実施することにより、市が自ら実施した場合と比較して、定量的評価において財政負担額の軽減が見込まれ、かつ定性的評価においても高い効果を期待することができる。

以上により、本事業を特定事業として実施することは適当であると認め、ここに PFI 法第 7 条に基づく特定事業として選定する。

2 債務負担行為限度額（平成 28～44 年度）

総額 10,368 百万円を限度とする事業費並びにこれに対する消費税及び地方消費税の合計額相当額。

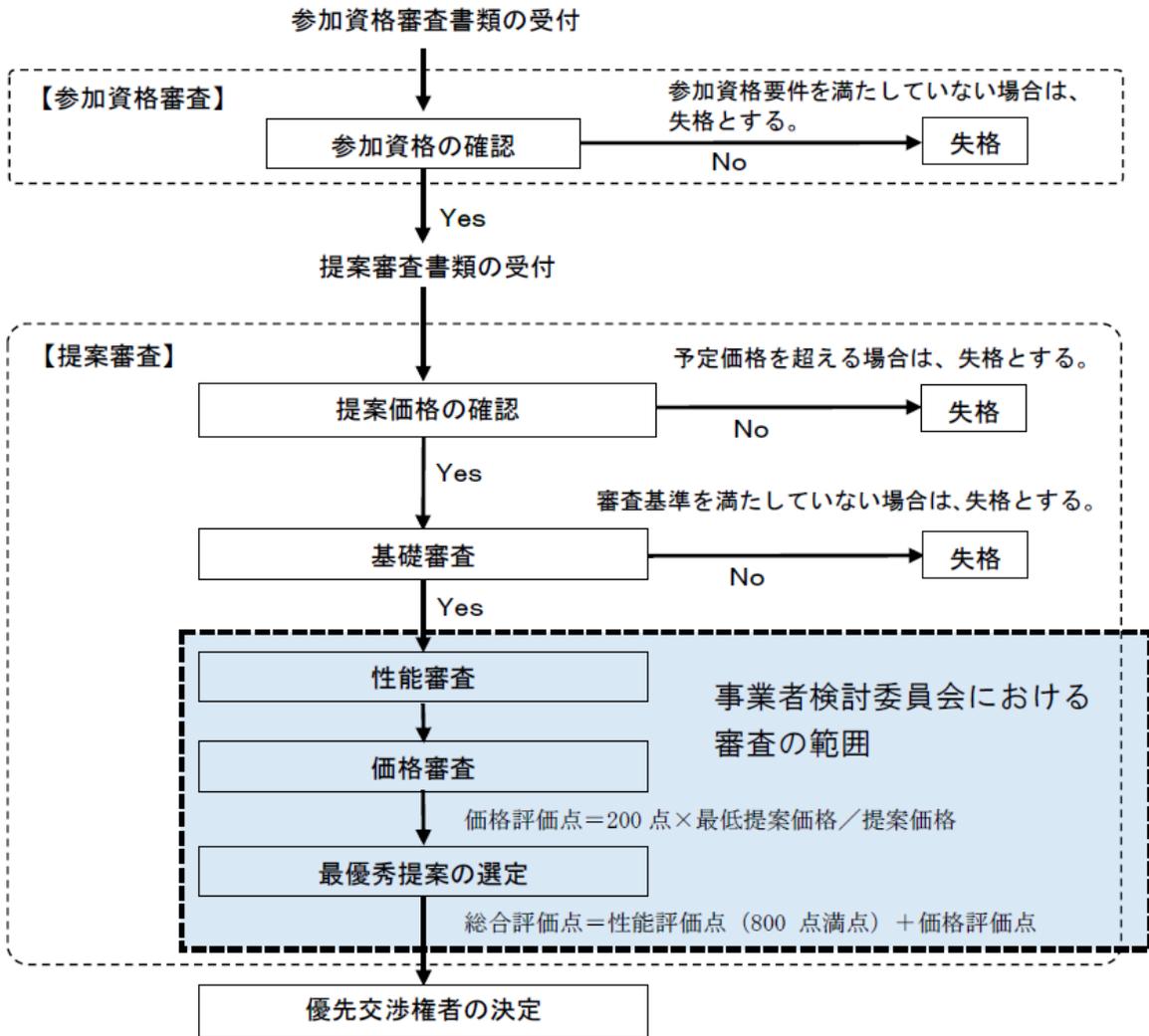
3 今後のスケジュール（予定）

- 公募開始 平成 27 年 7 月
- 優先交渉権者の選定・公表 平成 27 年 10 月
- 事業契約の締結 平成 28 年 3 月
- 事業期間 事業契約締結日～平成 44 年 9 月頃
 - ・設計・施工期間 事業契約締結日～平成 29 年 9 月頃
 - ・開業準備期間 事業契約締結以降の事業者提案日～平成 29 年 9 月頃
 - ・供用開始日 平成 29 年 10 月頃
 - ・維持管理・運営期間 平成 29 年 10 月頃～平成 44 年 9 月頃

4 優先交渉権者の決定方法について（案）

優先交渉権者は、以下に示す審査を経て、市が決定する。

(1) 優先交渉権者決定の手順



(2) 性能審査 (800 点満点)

■ 審査項目 (案)

大項目	中項目	小項目	配点		
事業計画	事業計画の妥当性	資金調達計画の安定性	10	110	
		事業収支計画の安定性	30		
	リスク管理及び事業継続性の確保	事業継続の安定性	20		
		リスク管理の考え方			
地域社会、地域経済への貢献			50		
初期整備	施設全体計画	内装、意匠計画	10	240	
		諸室配置及び動線計画	10		
		設備計画			
		ユニバーサルデザインへの配慮	10		
		サイン計画			
	基本展示室、基本展示計画	基本展示フロア(5階部分)の空間計画	80		
		基本展示計画			
	その他、諸室計画	ドームシアター(プラネタリウム)整備計画	30		
講演会等スペース整備計画		30			
その他の各室の整備計画		20			
その他	施設整備に関する体制及びモニタリング	50			
	施工計画、建物本体工事との調整				
開業準備	開業準備計画	科学館稼働に向けた開業準備計画	10	30	
		少年科学文化会館機能の補完業務	20		
維持管理	維持管理	維持管理業務体制	70	90	
		維持管理業務内容			
修繕計画(展示更新を除く)			20		
運営	運営全般	運営業務の全体方針		330	
		開館日、開業時間、料金設定	30		
		運営体制、雇用条件の考え方			
	展示事業	基本展示事業に関する運営計画			50
		基本展示更新計画及び更新の考え方			
		企画展示事業に関する実施・運営方針			
	ドームシアター(プラネタリウム)事業	ドームシアター(プラネタリウム)事業に関する運営計画			50
		投影計画、自主番組制作方針・計画			
	その他教育普及事業	演示、体験学習の実施計画			50
		学校連携、アウトリーチ活動等の実施計画			
		教育普及事業におけるプログラム制作方針・計画			
	交流事業に関する運営方針	地域交流、ファンづくりに関する実施計画			40
		広報・情報発信の実施計画			
人材育成、ネットワーク形成事業に関する運営方針	子どもの参画やボランティア養成の実施計画		30		
	科学館連携ネットワークの活用方針				
講演会等スペースの運営計画			30		
諸室貸出管理業務の実施計画					
その他、運営業務の実施方針			10		
自主事業実施計画	必須事業		20		
	任意事業				
モニタリング及び事業改善に関する実施計画			20		
合計			800		

科学館事業の進捗について

1 館名称

福岡市の新しい科学館については、名称を「福岡市科学館」とし、青少年はもとより、幅広い世代の人々に親しまれる施設を目指す。

2 若田光一宇宙飛行士の名誉館長就任について

新しい科学館では、“福岡ならではの”の取組みや多彩な活動を展開し、大人も楽しめる新しいスポットを創造するなど、幅広い世代の人々が親しみ、夢を描く施設を目指していることから、国際的に抜群の知名度を誇り、夢を強く発信できる人物である若田光一宇宙飛行士に科学館の名誉館長として就任いただく。

〈略歴〉

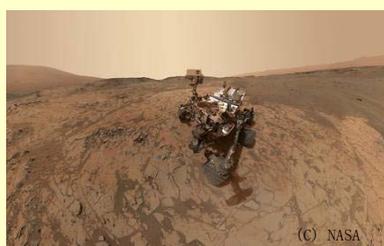


1987年	九州大学工学部航空工学科卒業
1996年	スペースシャトルに日本人初のミッションスペシャリストとして搭乗
2009年	日本人初のISS（国際宇宙ステーション）長期滞在ミッションを実施
2013～14年	日本人最長宇宙滞在、日本人初のISS船長
〈現職〉 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部門宇宙飛行士運用技術ユニット 宇宙飛行士	

3 福岡ならではの取組み

(1) ドームシアターをメインに宇宙の最新情報を紹介

ドームシアターでは、最新の宇宙開発や宇宙研究について、その成果を迫力ある映像により紹介。自主制作により、他館では見ることのできない番組を上映。また、JAXAや日本宇宙少年団などの活動をバックアップするとともに、大型望遠鏡やミニプラネタリウムを搭載した移動天文車でのアウトリーチも展開する。



探査機による火星表面画像



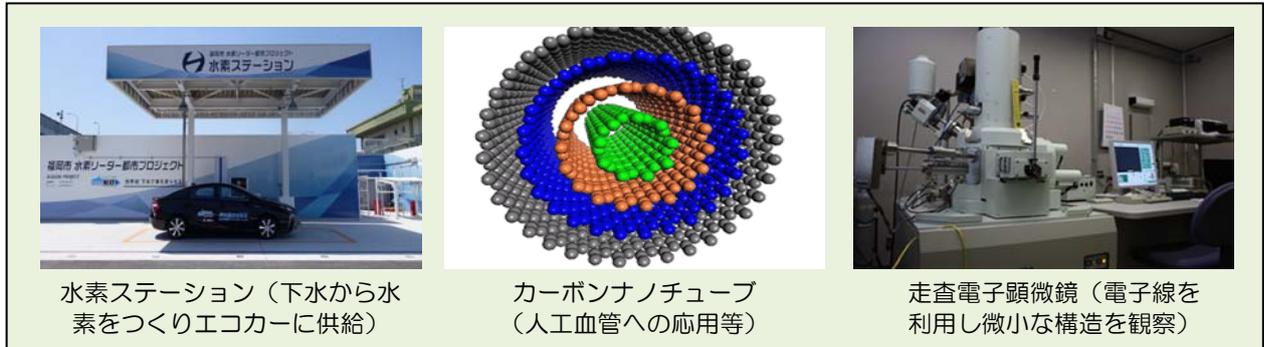
ISSから見た台風の目



ロケット打ち上げの瞬間

(2) 福岡で研究がさかんな分野を展開

福岡では産学官が連携し、水素エネルギー技術やナノテクなどの先端科学技術の開発に取り組んでいる。これらの福岡ならではの新しい取り組みについて積極的に紹介し、科学の未来を感じられる展示を行う。



(3) 地元クリエイター等による双方向性のデジタルコンテンツを展開

次代の成長エンジンとなりうるクリエイティブ産業関連の地元クリエイターや、多数集積する大学や専門学校の学生の協力のもと、双方向的な展示により、体を使って楽しめる子ども向けの最新デジタルコンテンツを展開する。



(4) ファンづくりに向けた交通系 IC カード等の活用

「はやかけん」をはじめとする交通系 IC カードを活用できるシステムでポイントカード会員制度を導入し、継続的に利用するリピーターを獲得するなど科学館ファンづくりを行う。



4 多彩な活動の展開

(1) 高い技術と経験を持った学芸員や技術者がオリジナル・プログラムを制作

体験活動メニューは科学館のスタッフが自主企画制作で考案できるよう、専門のスタッフ体制を構築。様々なプログラムの質や更新頻度などを担保するため、市と事業者の間で運営協議会を設置。



(2) 展示だけではなく、体験活動を充実

様々な体験活動のメニュー（サイエンスショーやワークショップ、工作活動、科学講座、クラブ活動など）を揃え、多面的に子どもたちにアプローチし、科学への興味を誘う。また、館外活動として、学校や地域へのアウトリーチやフィールドワークなども行う。



5 幅広い世代を対象

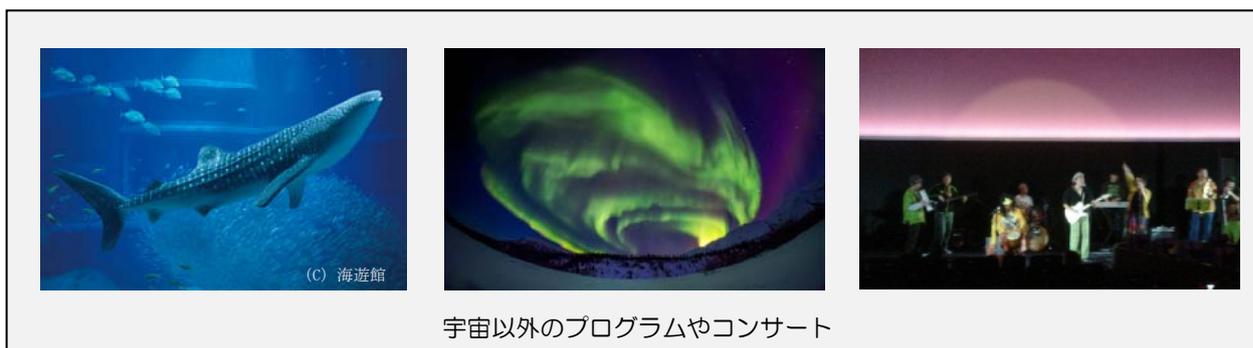
(1) 子どもから大人まで幅広い世代に親しまれる科学館

中学生や高校生の知的探求心を育むレベルの高い展示やクラブ活動を実施するとともに、高校・大学生が出展者として参加できるイベント等を開催する。また、体験活動メニューについては、大人を対象とした科学講座やワークショップ活動なども展開する。



(2) 夜のスペシャルプログラムなど、大人も楽しめる科学館

週末の夜を中心に、大人も楽しめる福岡の新しいスポットを創造するため、ドームシアターでの宇宙以外のプログラムや、サイエンスホールでの音楽や演劇など、大人向けのスペシャルプログラムを展開する。



6 施設計画について

(1) 外観等のデザイン

九州旅客鉄道株式会社とのデザイン顧問の水戸岡氏が外観デザイン等を監修。



<外観イメージ>



<複合ビルエントランスイメージ>



<直通エスカレーターイメージ>

(2) 科学館の面積

九州旅客鉄道株式会社との協議の上、科学館の面積を拡大。（賃料増なし）

	当初	現計画案
専有部	約 8,000 m ²	約 8,300 m ²
共用部	約 2,000 m ²	約 1,850 m ²
計	約 10,000 m ²	約 10,150 m ²